

令和8年4月1日

文芸学部 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1 ～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 各学科・ 専攻	個々の教員が評価を行い、結果を文芸学部で集約し、教務委員会等による学部の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価委員会による自己点検・評価に活用。
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1 ～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、教務委員会等による学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、情報公開に活用。
3	卒業生の進路状況	DP1 ～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア 支援委員 会	キャリアセンターが文芸学部へ報告し、キャリア支援委員会等による就職支援の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、広報・ホームページ委員会等による情報公開に活用。
4	卒業生調査	DP1 ～3	毎年1回	卒業後1年	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身につ	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、教務委員会等による学部のカリキュラム改善、学修

				以上経過の 卒業生	いた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望		支援や学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、広報・ホームページ委員会等による情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP1 ～3	毎年 1 回	卒業生就職先 採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア 支援委員会及び広報・ホームページ委員会	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、広報・ホームページ委員会等による情報公開に活用。
6	学部長会談	CP/ DP1 ～3	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部で報告書を作成し、その内容をもとに教務委員会等による授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価に活用。
7	学修振り返りアンケート	CP	毎学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員会及び教務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、教務委員会等による授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価委員会による自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期 1 回(成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援委員会及び各学科・専攻	文芸学部教員が文芸学部生に対する面談を実施し、学生委員会等による修学及び学修支援、教務委員会等による学部のカリキュラム改善、自己点検・評価委員会による自己点検・評価に活用。
9	全国学生調査 (2 年次)	CP	毎年 1 回	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターが文芸学部に報告し、教務委員会等による学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、情報公開に活用。
10	GPS-Academic (3 年次)	CP	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア 支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、キャリア支援委員会等によるキャリア支援、教務委員会等による学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価委員会による自己点検・評価、情報公開に活用。
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部 及び各学科・専攻	入学センターが大学協議会や文芸学部に報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	入学前教育	AP	毎年 1～3 月	学部個別入試による入	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部 及び各学	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、教務委員会等による入学時点での能力の

				学予定者		科・専攻	把握、今後の学修支援に活用。
13	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	文芸学部 キャリア 支援委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が文芸学部へ報告し、教務委員会等による入学時点の 汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評 価委員会による自己点検・評価、広報・ホームペ ージ委員会等による情報公開に活用。
14	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	文芸学部	文芸学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟 度別語学教育のクラス分けに活用。

以 上

令和8年4月1日

文芸学部 文学科 日本文学専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1 .3 ・ DP2 .3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 文学科日 本文学専 攻	個々の教員が評価を行い、結果を文学科日本文学専攻で集約し、専攻の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP3 .1 ・ DP3 .2	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて文学科日本文学専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1 .3 ・ DP3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア 支援委員 会	キャリアセンターから文芸学部に報告し、これをうけて、文学科日本文学専攻として、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

		.2					
4	卒業生調査	DP3 .1 ・ DP3 .2	毎年 1 回	卒業後 1 年 以上経過の 卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて文文学専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP3 .1 ・ DP3 .2	毎年 1 回	卒業生就職先 採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア 支援委員会及び広報・ホームページ 委員会	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて文文学専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP/ DP1 .3 ・ DP2 .3 ・ DP3 .2	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部で報告書を作成し、これをうけて文文学専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP	每学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員会及び教務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、これをうけて文文学専攻として、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期 1 回(成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援委員会	文芸学部の方針の下、文文学専攻教員が専攻学生に対する面談を実施し、その報告をうけて、学科として、修学及び学修支援、学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査 (2 年次)	CP	3 年ゼミ調査時	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて文文学専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic	CP	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて文文学専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

	(3年次)					支援委員会	学専攻としてキャリア支援、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部及び文学科日本文学専攻	入学センターが大学協議会や文芸学部に報告し、これをうけて、文学科日本文学専攻として入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	入学前教育	AP	毎年1～3月	学部個別入試による入学予定者	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部及び文学科日本文学専攻	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて文学科日本文学専攻として入学時点での能力の把握、今後の学修支援に活用
13	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	文芸学部キャリア支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて文学科日本文学専攻として、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用

以上

令和8年4月1日

文芸学部 文学科 英語英米文学専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1 ～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 文学科英語英米文学専攻	個々の教員が評価を行い、結果を文芸学部で集約し、英語英米文学専攻の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1 ～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア支援委員会	キャリアセンターが文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻における就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生調査	DP3	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

5	就職先アンケート	DP3	毎年 1 回	卒業生就職先採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア支援 委員会及び広報・ホームページ委員会	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP1 ～2/ DP1 ～3	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部で報告書を作成し、その内容をもとに英語英米文学専攻において授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP1 ～2	毎学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員会及び 教務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、英語英米文学専攻において授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP1 ～2	毎学期 1 回 (成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援委員会	文芸学部の方針のもと、文芸学部英語英米文学専攻教員が専攻学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査 (2 年次)	CP1 ～2/ DP1 ～3	3 年ゼミ調査時	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターが文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic (3 年次)	CP1 ～2	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア支援 委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部へ報告し、キャリア支援、英語英米文学専攻の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	英語プレイスメントテスト (クラス分け)	CP1 ～2	毎年 2 回	1～3 年生	TOEIC テスト	文芸学部 文芸学科英語英 米文学専攻	英語英米文学専攻の学生全員を対象として後期開始前、前期開始前の 2 回行なっている。習熟度別によるクラス分けのための基礎資料として活用
12	入学試験	AP1 ～3	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部及び 文芸学科英語英 米文学専攻	入学センターが大学協議会や文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻において入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
13	入学前教育	AP1 ～3	毎年 1～3 月	学部個別入試による入学予定者	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部及び 文芸学科英語英 米文学専攻	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻において入学時点での能力の把握、今後の学修支援に活用
14	GPS-Academic	AP1 ～3	毎年 4～5 月頃	1 年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意	文芸学部 キャリア支援	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部へ報告し、英語英米文学専攻に

	(1年次)				識、卒業後の進路	委員会	において入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
15	英語プレースメントテスト (入学時)	AP1 ～ 3/CP 1～2	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	文芸学部	文芸学部が入学時点の英語習熟度を把握し、その資料を、1年生の前期の習熟度別クラス分け（英語英米文学専攻専門科目）に活用

以上

令和8年4月1日

文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻	個々の教員が評価を行い、結果を舞台芸術専攻で集約し、学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて舞台芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア支援委員会	キャリアセンターから文芸学部へ報告し、これをうけて、舞台芸術専攻として、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生調査	DP1～3	毎年1回	卒業後1年以上経過の	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プロ	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて舞台芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評

				卒業生	グラムへの意見・要望		価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP2 DP3	毎年 1 回	卒業生就職先採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア 支援委員 会及び広 報・ホー ムページ 委員会	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて舞台芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	DP1 ～ 3/C P	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部で報告書を作成し、これをうけて舞台芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP	每学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員 会及び教 務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、これをうけて舞台芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期 1 回(成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援 委員会	文芸学部の方針の下、舞台芸術専攻教員が学科学生に対する面談を実施し、その報告をうけて、学科として、修学及び学修支援、学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査 (2 年次)	CP	毎年 1 回	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて舞台芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic (3 年次)	CP	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア 支援委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて舞台芸術専攻としてキャリア支援、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部 及び芸術 学科舞台 芸術専攻	入学センターが大学協議会や文芸学部に報告し、これをうけて、舞台芸術専攻として入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	入学前教育	AP	毎年 1～3 月	学部個別入試による入学予定者	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部 及び芸術 学科舞台	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて舞台芸術専攻として入学時点での能力の把握、今後の学修支援に活用

						芸術専攻	
13	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	文芸学部 キャリア 支援委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が文芸学部へ報告し、これをうけて舞台芸術専攻とし て、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、 自己点検・評価、情報公開に活用

以 上

令和8年4月1日

文芸学部 芸術学科 造形芸術専攻 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1・2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 芸術学科 造形芸術専攻	個々の教員が評価を行い、結果を造形芸術専攻で集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて造形芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア支援委員会	キャリアセンターが文芸学部へ報告し、これをうけて造形芸術専攻として、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

4	卒業生調査	DP1~3	毎年 1 回	卒業後 1 年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP1~3	毎年 1 回	卒業生就職先採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア支援委員会及び広報・ホームページ委員会	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP/ DP1~3	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部に報告書を作成し、これをうけて造形芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP	毎学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員会及び教務委員会	文芸学部に学部実施分の結果を集計し、これをうけて造形芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期 1 回(成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援委員会	文芸学部の方針の下、造形芸術専攻教員が専攻学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査 (2 年次)	CP	3 年ゼミ調査時	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターが文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic (3 年次)	CP	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部 及び芸術学科造形芸術専攻	入学センターが大学協議会や文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	入学前教育	AP	毎年 1~3 月	学部個別入試による入	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部 及び芸術	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけて造形芸術専攻として、入学

				学予定者		学科造形 芸術専攻	時点での能力の把握、今後の学修支援に活用
13	GPS- Academic (1年次)	AP	毎年4～ 5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	文芸学部 キャリア 支援委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が文芸学部へ報告し、これをうけて造形芸術専攻と して、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支 援、自己点検・評価、情報公開に活用
14	英語プレイ スメントテ スト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	文芸学部	文芸学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟 度別語学教育のクラス分けに活用

以上

令和8年4月1日

文芸学部 文化・歴史学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文ルーブリック	DP1～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部 文化・歴史学科 教務委員会	個々の教員が評価を行い、結果を文化・歴史学科で集約し、学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部 キャリア支援委員会	キャリアセンターから文芸学部へ報告し、これをうけて、文化・歴史学科として、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生調査	DP1～3	毎年1回	卒業後1年	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身につ	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科として、カリキュラム

				以上経過の卒業生	いた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望		改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP1 ～3	毎年 1 回	卒業生就職先採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学の DP 達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部キャリア支援委員会及び広報・ホームページ委員会	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科として、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP1 ～3 DP1 ～3	毎年 1 回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	文芸学部学部長	文芸学部で報告書を作成し、これをうけて文化・歴史学科として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート	CP1 ～3	每学期 1 回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD 委員会及び教務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、これをうけて文化・歴史学科として、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP1 ～3	每学期 1 回(成績不振) 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況 (GPA、修得単位数、留年者数) 休学者数、退学者数	文芸学部学生支援委員会	文芸学部の方針の下、文化・歴史学科教員が学科学生に対する面談を実施し、その報告をうけて、学科として、修学及び学修支援、学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査 (2 年次)	CP1 ～3	3 年ゼミ調査時	2 年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部学部長	IR・教育支援センターから文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic (3 年次)	CP1 ～3	毎年 1 回	3 年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部キャリア支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科としてキャリア支援、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	入学試験	AP1 ～3	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部及び文化・歴史学科	入学センターが大学協議会や文芸学部へ報告し、これをうけて、文化・歴史学科として入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	入学前教育	AP1 ～3	毎年 1～3 月	学部個別入試による入	大学での学修に必要な基礎学力の担保	文芸学部及び文	文芸学部から依頼を受けた委託業者が文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科として入学

				学予定者		化・歴史 学科	時点での能力の把握、今後の学修支援に活用
13	GPS- Academic (1年次)	AP1 ～3	毎年4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	文芸学部 キャリア 支援委員 会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者 が文芸学部へ報告し、これをうけて文化・歴史学科とし て、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、 自己点検・評価、情報公開に活用

以 上

令和8年4月1日

文芸学部 文化デザイン学科 アセスメントプラン
(令和9年度以降 デザイン学科に変更予定)

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	文芸学部デザイン学科	個々の教員が評価を行い、結果をデザイン学科で集約し、学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	文芸学部学部長	IR・教育支援センターが文芸学部へ報告し、これをうけてデザイン学科として、学科のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	文芸学部キャリア支援委員会	キャリアセンターが文芸学部へ報告し、これをうけてデザイン学科として、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

4	卒業生調査	DP1 ~3	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターが文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、学科のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP1 ~3	毎年1回	卒業生就職先 ※ 数名の採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	文芸学部 キャリア支援委員会及び広報・ホームページ委員会	IR・教育支援センターが文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、学科のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP/ DP1 ~2	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度学生生活に関する要望等	文芸学部 学部長	文芸学部で報告書を作成し、これをうけてデザイン学科として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	学修振り返りアンケート		每学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	文芸学部 FD委員会及び教務委員会	文芸学部で学部実施分の結果を集計し、これをうけてデザイン学科として、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期1回(成績不振)、随時(休退学)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者数)、休学者数、退学者数	文芸学部 学生支援委員会	文芸学部の方針の下、デザイン学科教員が学科学生に対する面談を実施し、その報告をうけて、学科として、修学及び学修支援、学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	全国学生調査(2年次)	CP	未定	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	文芸学部 学部長	IR・教育支援センターから文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic(3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	文芸学部 キャリア支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、キャリア支援、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
11	学生生活実態調査	CP	隔年9~10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対	文芸学部 学部長及	学生部がIR・教育支援センターに報告し、文芸学部のカリキュラム改善、学修支援や

					する評価	び学生部長補佐	学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	文芸学部及びデザイン学科	入学センターが大学協議会や文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
13	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年 4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	文芸学部キャリア支援委員会	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が文芸学部に報告し、これをうけてデザイン学科として、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
14	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	文芸学部	文芸学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上